



## 第2回横濱まちづくりラボ「横浜文化体育館再整備を核としたまちづくり」

開催日時:平成26年8月7日

開催場所:横濱市庁舎8階802会議室

参加者の構成:

スポーツ関係 3名(3社)、医療・福祉関係 2名(2社)、金融業 7名(4社)、  
コンサルティングサービス 10名(8社)、建設・不動産業 7名(5社)、  
商社・広告等 5名(3社)、地元協議会等 4名(3団体)

38名(28社・団体)

### 知の集積を目指し、横浜文化体育館を コアとしたまちづくりの可能性を検討



#### 1. レクチャー

秋葉原UDX先端ナレッジフィールドのプロデュースなど、先駆的な場づくりを手掛けて来られた廣常啓一氏(株式会社新産業文化創出研究所代表取締役所長)よりレクチャーをいただきました。

**【主な内容】**人口が縮小が進む中、街づくりでは、産業・大学・研究機関等が横断的に結びついた知のクラスターづくりが求められる。様々な人材が集い議論して発想を広げ、新しい技術やプロジェクトを育て地域のブランドを形成する。新しいブランディングによる国内の事例としては、秋葉原や神田がある。スポーツ施設との相乗効果を期待できる新しい事業を、地域ブランド形成の観点で考えれば、新しいブランディングを持ったまちづくりができる可能性がある。

#### 2. 参加者によるディスカッション

参加者は金融業、医療業、スポーツ産業、地域協議会など、分野横断する28団体(38名)でした。テーブルごとに行ったディスカッションでは、横浜文化体育館をコアとしたまちづくりの可能性について、様々なアイデアが出されました。最後に、ディスカッション内容の発表を行い、アイデアを全体で共有しました。

##### 各テーブルで議論されたまちづくりのイメージの一例

- スポーツなどを楽しみながら、健康になりたい人が集まる街
- 大通り公園や横浜スタジアム、日本大通りとの関係強化により回遊性が向上した街
- スポーツ施設の周辺のビルを活用し、スポーツと地域とが連携したビジネス創出による街のブランド化
- スポーツ施設と予防医療、健康機器、健康食品との連携
- スポーツ施設の周辺でも、“スポーツ”に触れることができる街



#### 参加者からの声

- ・非常に活発でレベルの高い議論となり、予想以上でした。具体的かつ実現性を考えたワークショップはとてもよい。一方で、視点を広げる機会が別途平行してあるとよいかと思います。
- ・開かれたこのような議論の場があることは、大変有意義だった。「誰のための」「どのような」街にしたいのかそのコンセプトやビジョンがあってこそ、具体的な事業を検討していけるのだと思う。
- ・非常におもしろいが、実験的な試みで、進め方については賛否両論あると思う。

#### 今後の活動

「横浜文化体育館再整備を核としたまちづくり」をテーマとした横濱まちづくりラボは、全3回シリーズで開催し、議論を深めていきます。

- 次回の開催予定 9月4日(木) 13:45~17:15
- 次々回の開催予定 9月18日(木) 13:30~17:00